

ラオス北部における植生動態と地域住民のリスクマネジメント

Vegetation Dynamics and Local Risk Management in Northern Laos

講師: 広田 勲 / Isao Hirota

名古屋大学生命農学研究科特任助教

Assistant Professor, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University

日時/Date: **6月4日(木) 16:20~17:50** June 4, 2015 (Thu.) 16:20-17:50

場所/Venue: 立命館大学衣笠キャンパス恒心館726教室/

Room 726, Koshinkan, Kinugasa Campus, Ritsumeikan University

言語/ Language: 日本語(英語での説明あり) / Japanese with brief commentary in English

無料、事前申し込み不要 Admission Free, Prior-registration non-required

要旨

ラオス北部は山地斜面が卓越しており、そこでは焼畑農業が広く行われてきた。地域の人々は自然環境に大きく依存した生活を営み、焼畑地においては主作物である陸稲生産を行うとともに、林産物採取、狩猟、漁労など様々な活動を組み合わせて生活してきた。一方で近年、山地域への市場経済の浸透にともなってトウモロコシ、ハトムギ、ゴマなどの商品価値のある作物やゴム、ユーカリなどの植林樹種の導入、あるいは商品価値のある林産物の過剰な採取などが行われるようになり、土地利用や自然資源利用が大きく変化している。その結果、これまで様々な活動が有機的に結びついてきたような生業形態から、それぞれの活動が独立して行われることで、これまで不安定になりがちな農業生産を安定化させる役割を担ってきた諸活動が制限されるようになってきている。発表者はこれまでラオス北部において自然環境の動態、特に植生の動態および植物資源と地域住民の生業の関係について調査を行ってきた。本研究会では上記のようなラオス北部で起こっている現状について報告し、その上であるべき土地利用あるいは自然資源利用について考察したい。



主催: R-GIRO研究プロジェクト

「オール立命館による学際統合型平和研究拠点」

立命館大学大学院国際関係研究科

共催: JSPS科研費26360030

[問合せ先] towards-new-peace-studies@hotmail.com

講師略歴:

2009年、京都大学大学院農学研究科より博士(農学)取得。ラオス国立農林業研究所研究員、名古屋大学環境学研究科および生命農学研究科研究員を経て現職。ラオス北部をフィールドとし、焼畑休閑林の植生動態や機能について研究している。